

2003 年度受賞作

佐藤一郎賞



浅

たんのそのこ

審査員コメント

曖昧模糊とした、たとえば陰と陽のエネルギーがぶつかりあって、そこで物が生成して発展して具体的にな形にこれらになっていくんじゃないか、そういう動きそのものがテーマになっている。

「浅(せん)」
画の六法では、一二日、気韻生動といわれ、気はとても重要を描くうえでコンセプトになりうる一言です。今、形態がより有機的に成して、後、いくことを望むと同時に色彩も、序々に増えるといいたいですね。
たんのそのこ様
平成十五年十一月十六日
佐藤一郎



山里の春

氏部 経彦

審査員コメント

ディテールが凄い。ふるさとと自分の内面的な隠れ家が合体して、そこで風景ができています。描かれている一本の樹木、一軒の家、道路、山道(…)ひとつひとつさわって描く様な、そういう変なリアリティがある。物自体にとにかく自分なりに迫ってゆく、そういう氏部さんのエネルギーを評価したい。

「山里の春」
故郷の風景をこれからはかくれ家であるアトリエで描りてくれた、
茶色に見ええる部々を茶色の絵具で描くのはなく、もっといろいろな絵具の色を描りてみてほしい。明るい部分に白色を混ぜて描りてますが、乾いたら半透明な絵具を薄層に塗ると、もっと色彩のハイモニーがでる気がします。
氏部 経彦様
平成十五年十一月十六日
佐藤一郎



茸峠

小野寺 智

審査員コメント

メルヘンチックな絵なんだけれども、現在自分が置かれている状況を的確に捉えて、かつ、そこに一つの希望を見いだしている。

「茸峠(きょうとうげ)」
極めて個人的な想像力や創造力が、時として歴史を越えて魅力ある芸術作品と、結ぶことがあるのです。
今、このことは、何にかの偶然の出会いにすぎませんが、生きていくうえで、何にかになるかもしれません。
小野寺智様
平成十五年十一月十六日
佐藤一郎



わたしの隠れ家

2003